

## 哲学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学特論Ⅰ	こころと意識の分析哲学	2	伊藤 春樹	1学期	木	4	1	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅱ	ニーチェの「自然主義」	2	齋藤 直樹	2学期	火	4	2	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅲ	比較哲学入門	2	直江 清隆、城戸 淳、荻原 理	1学期	火	5	3	哲学特論Ⅲ
哲学特論Ⅳ	精神の生態学—生態学的アプローチの身体論・生命論・環境論	2	染谷 昌義	集中(1学期)			4	哲学特論Ⅲ
生命環境倫理学特論Ⅰ	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	1学期	金	3	6	哲学特論Ⅰ
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江 清隆、城戸 淳、荻原 理	1学期	月	5	7	対応科目なし
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江 清隆、城戸 淳、荻原 理	2学期	月	5	8	対応科目なし
哲学研究演習Ⅰ	アーレント『革命について』第6章を読む	2	森 一郎	1学期	火	4	9	哲学研究演習Ⅰ
哲学研究演習Ⅱ	自由と行為の諸問題	2	城戸 淳	2学期	木	2	10	哲学研究演習Ⅱ
古代中世哲学研究演習Ⅰ	アリストテレス『自然学』を読む	2	荻原 理	1学期	月	3	11	古代中世哲学研究演習Ⅰ
古代中世哲学研究演習Ⅱ	アリストテレス『自然学』を読む	2	荻原 理	2学期	月	3	12	古代中世哲学研究演習Ⅱ
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	1学期	水	5	13	近現代哲学研究演習Ⅰ
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	2学期	水	5	14	近現代哲学研究演習Ⅱ
現代哲学研究演習Ⅰ	フッサール「改造論文」を読む	2	直江 清隆	1学期	金	5	15	近現代哲学研究演習Ⅲ
現代哲学研究演習Ⅱ	フッサール「改造論文」を読む	2	直江 清隆	2学期	金	5	16	近現代哲学研究演習Ⅳ
科学哲学研究演習Ⅰ	クワイン「二つのドグマ」とその周辺	2	荻原 理	1学期	月	4	17	科学哲学研究演習Ⅰ
科学哲学研究演習Ⅱ	因果性の哲学入門	2	直江 清隆	2学期	火	2	18	科学哲学研究演習Ⅱ
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	エイジングの時代の医療・技術	2	直江 清隆	2学期	金	3	19	生命環境倫理学研究演習

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：伊藤 春樹（非常勤講師）

講義コード：LM14402， 科目ナンバリング：LIH-PHI601J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 哲学特論 II 】

1. 授業題目：

こころと意識の分析哲学

2. Course Title (授業題目)：

Analytical Philosophy of Mind and Consciousness

3. 授業の目的と概要：

こころは、古代ギリシア以来、つねに哲学の根本問題であった。意識は近代哲学の根幹をなしている。現代哲学の典型である分析哲学が、これらの伝統的な問題をどのように扱うか、それを具体的に示すことがこの授業の目的である。分析哲学は、19 世紀の後半から 20 世紀の前半にかけて面目を一新することになる新しい論理学にもとづいた言語哲学と、これまた 19 世紀の後半から 20 世紀の前半にかけて生じた物理学や生物学における大変革に刺激された新しい唯物論（物理主義）とからなっている。しかし、こころや意識をめぐる哲学的問題は、言語哲学や物理主義を単純にあてはめて簡単に解けるような生易しいものではない。なんとすれば、こころと意識の問題を解くということは、宇宙における人間の位置を確定するという、深く形而上学的な課題を避けては通れないからである。こころや意識の問題と格闘することによって、分析哲学もまた、様々な点で乗り越えられていかねばならない。それを通じて、分析哲学は、まさに哲学そのものとなる。それゆえ、この授業では、これらの大問題を前にして、分析哲学のどのような発想がどのように揚棄されることになるか、それを示すことがもうひとつの目的となる。

4. 学習の到達目標：

分析哲学とはどのように問題を立て、どのように解いていくのか、体験できる。具体的には、言語哲学がこころの問題についてどのように有効なのか、物理主義（自然主義）とは、どのように考えることなのか理解できるようになる。それを通じて、現代において哲学するとはどういうことなのか、明確なイメージを獲得できるようになる。さらに、こころと意識のありかたについて、ひとつの明確な解答を手にすることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：分析哲学とはどのような哲学態度か。
- 2：意識の哲学(1)：伝統的に哲学は意識をどのように捉らえてきたか。
- 3：意識の哲学(2)：分析哲学は意識をどのように捉らえてきたか。
- 4：意識の哲学(3)：これまでの物理主義はどこが間違っていたか。
- 5：意識の哲学(4)：汎心論の重要性と限界。
- 6：意識の哲学(5)：意識はどこに生じるか。
- 7：意識の哲学(6)：「機械には機械なりの意識がある」はどこが間違っているか。
- 8：意識の哲学(7)：「複雑になれば意識が生じる」はどこが間違っているか。
- 9：こころの哲学(1)：こころって何？
- 10：こころの哲学(2)：こころ・精神・魂
- 11：こころの哲学(3)：なぜ「こころって何？」と訊ねないのか。
- 12：こころの哲学(4)：こころが何か誰も知らない。
- 13：こころの哲学(5)：こころと卓越性
- 14：こころの哲学(6)：「こころ」のアナフォリックな性質
- 15：こころの哲学(7)：こころと二元論

6. 成績評価方法：

授業内容に関連したレポートを提出してもらい、それに基づいて採点する。採点基準は、授業内容をどれだけ正確に理解しているか、どれだけ根底的な批判を展開できているかで判定する。

7. 教科書および参考書：

必用な文献・資料はそのつど紹介し、また、配布するなりダウンロードしていただくことを指示するので、教科書なるものは使用しない。(心の哲学) 全般については、すこし難しいかもしれないが、信原幸弘編『シリーズ心の哲学 I～III』(勁草書房)を参考書として指定しておく。意識については、デネットやチャルマーズや信原の諸著が、分析哲学における扱いをみるのに参考となる。

8. 授業時間外学習：

教材として配布される資料(担当教員が書いた論文)を前もって読んでおくこと。そしてなにより重要なのは、資料として渡された論文に対して、激烈で徹底的な批判を考えてみることに。

9. その他：なし

**科目名：哲学特論Ⅱ／Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ**

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：齋藤 直樹（非常勤講師）

講義コード：LM22406， 科目ナンバリング：LIH-PHI602J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 哲学特論Ⅱ】

**1. 授業題目：**

ニーチェの「自然主義」

**2. Course Title (授業題目)：**

Nietzsche's Naturalism

**3. 授業の目的と概要：**

本講義の目的は、「自然」あるいは「自然的身体衝動」の存在論的／認識論的基底性を論じるニーチェの一連の思想を主題化し、彼が用いる「自然」概念の多義性をその成立過程に即しつつ分析しながら、ニーチェの思索の歩みの全体を「自然主義」の哲学として体系的に理解することにある。そのうえで、二〇世紀後半以降、哲学的言説の全体を新たな仕方で構造化している「自然主義」と「反自然主義」との対立を視野に入れながら、ニーチェ独自の“自然主義”が持つ思想的ポテンシャルを現代的な文脈の中で評価することを試みる。

**4. 学習の到達目標：**

ニーチェの思索の全体を「自然主義」の哲学として体系的に理解するとともに、ニーチェの哲学の現代的な可能性を自分なりに見出すことができるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. ニーチェ哲学の全体像—伝統的解釈における体系的理解の試み
2. 「初期」思想圏の代表的主張
3. 「中期」思想圏の代表的主張
4. 「後期」思想圏の代表的主張
5. 初期思想圏における「自然主義」と「ロマン主義」の相剋
6. 『悲劇の誕生』の成立過程における「自然」概念の多義性
7. 「パーゼル講演原稿」における「ディオニュソスのなもの」
8. 「マデラーナー原稿」における「ディオニュソスのなもの」
9. 初期思想の展開と「ディオニュソスの象徴法」
10. 『反時代的考察』における「歴史主義」批判（1）
11. 『反時代的考察』における「歴史主義」批判（2）
12. 中期思想圏における「自然科学主義」の概要
13. 後期思想圏における「自然主義」と「歴史主義」の統合（1）
14. 後期思想圏における「自然主義」と「歴史主義」の統合（2）
15. ニーチェの「自然主義」の射程

**6. 成績評価方法：**

学期末のレポートで評価する。

**7. 教科書および参考書：**

教科書は使用せず、必要に応じて補助資料を配布する。参考書については、授業中に随時紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

各回で取り上げるニーチェの著作を、あらかじめないしは講義の後で、そのつど読んでみる。

**9. その他：なし**

**科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ**

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆、城戸 淳、荻原 理（教授）

講義コード：LM12506， 科目ナンバリング：LIH-PHI603J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 哲学特論Ⅲ】

**1. 授業題目：**

比較哲学入門

**2. Course Title (授業題目)：**

Comparative Philosophy

**3. 授業の目的と概要：**

比較哲学とは、異なった文化や伝統に基づく諸哲学を比較すること、あるいはその比較に基づく哲学である。とりわけ、西洋哲学と東洋哲学との比較に基づいて、東西の思想的な異同を探究し、世界的な哲学を模索することが課題となることが多い。

この講義では、客員准教授のキアラ・ロbbiano（Chiara Robbiano）氏（ユトレヒト大学）を講師に迎え、数回の講義をしてもらう。その後は、哲学専攻分野の教員によるリレー講義によって、多彩な観点から比較哲学の方法と実践を示す。

**4. 学習の到達目標：**

比較哲学の方法と実例を学ぶ。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1 問題提起と導入
- 2 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 1 (Robbiano)
- 3 復習と今後の準備
- 4 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 2 (Robbiano)
- 5 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Lecture 3 (Robbiano)
- 6 Comparative Philosophy of Being and Nothing, Discussion (Robbiano)
- 7 比較哲学 古代編1（荻原）
- 8 比較哲学 古代編2（荻原）
- 9 比較哲学 古代編3（荻原）
- 10 啓蒙と中国哲学（城戸）
- 11 カント、ショーペンハウアーとインド哲学（城戸）
- 12 西田幾多郎とギリシア哲学（城戸）
- 13 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立（1）（直江清隆）
- 14 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立（2）（直江清隆）
- 15 ドイツ哲学の移入と日本哲学の成立（3）（直江清隆）

**6. 成績評価方法：**

期末レポートによる。

**7. 教科書および参考書：**

授業中に紹介する。

**8. 授業時間外学習：**

紹介した文献等を各自で読むこと。期末レポートではみずから課題を設定して、比較哲学の実践を提示すること。

**9. その他：なし**

科目名：哲学特論Ⅳ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)、 単位数：2

担当教員：染谷 昌義 (非常勤講師)

講義コード：LM98826、 科目ナンバリング：LIH-PHI604J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：

精神の生態学-生態学的アプローチの身体論・生命論・環境論

2. Course Title (授業題目)：

Steps to an Ecology of Mind--Philosophy of the Ecological Approach to Perception and Action

3. 授業の目的と概要：

アメリカの知覚心理学者 James J. Gibson (1904-1979) の創始した「認識と行動への生態学的アプローチ」のエッセンスを解説し、そのキー概念と方法論を武器に生態学的観点からの心の哲学を検討する。

17世紀のデカルト以降、西洋哲学の伝統では、精神や心のはたらきは、思考や知性、意志に限定され、周囲のあり方とは独立して「内部」から発揮される能動的なはたらきと見なされてきた。しかし、今やこの伝統は崩れつつある。今世紀に入り心理学者や認知科学者は、心のはたらきは身体や環境と切り離しては理解できないことを真に認めるようになった。こうした潮流は広く身体性認知科学と呼ばれ、本講義で提示する「生態学的アプローチ」もその流れに連なる。

生態学的アプローチのもとでは、認識や行動だけでなく生命活動すべてが周囲と系をなして営まれるサイコロジカルな(心理的な)活動と見なされる。生物が誕生し、栄養を摂取し、成長発達し、さまざまな行動スキルを獲得し、周囲の状況を知覚し、同種の仲間たちとコミュニケーションをとり、自らの子孫を残し、周囲に棲家や道やゴミ捨て場をつくり、時間を区切って採餌や休息や労働や睡眠の時間割をつくる・・・これらすべては環境の資源を利用した生態学的な活動なのである。

心のはたらきの本性は生態学的であるという発想に立つとき、哲学的思考にもたらされる転換とブレークスルーを、授業では大胆に提示したい。おそらく、現象学的知覚論・身体論、心の哲学、知覚の哲学、行為の哲学、生物学の哲学のチャンポンになる予定である。

4. 学習の到達目標：

- 1) 認識と行動に対する生態学的アプローチのエッセンス(特に、情報にもとづく知覚説、アフォーダンスの理論)を理解する。
- 2) 哲学的認識論と行為論の基本問題を理解する。
- 3) 生態学的発想に立った思考様式を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) イントロダクション：知覚経験と行動への伝統的接近法(方法論的独我論)とその問題
- 2) 心の科学のブレークスルー：4E(embodied, embedded, enactive, extended)、身体性
- 3) 拡張認知仮説とエナクティヴィスムについて
- 4) 生態学的環境論：メゾスコピックな環境存在論、情報存在論
- 5) 生態学的認識論① 直接知覚説、情報に基づく知覚論
- 6) 生態学的認識論② 遮蔽知覚、自己知覚、視覚性運動制御
- 7) アフォーダンスの理論、知覚認識の資源としての情報と行動資源としてのアフォーダンス
- 8) 生態学的身体論① 知覚システム論、シナジー、知覚行為循環
- 9) 生態学的身体論② 行為の意図、探索する身体
- 10) 知覚に表象はいらないのか? ハングリー問題との対決
- 11) 知覚は誤らないのか? 知覚錯誤への対応
- 12) 動物の存在しない環境にアフォーダンスは存在するのか? : アフォーダンスの実在性
- 13) 記号や言葉の知覚に高次認知の介入はないのか? : 間接知覚の理論
- 14) 生態学的自然主義：アリストテレス的自然学と心理学の復権
- 15) まとめと総復習

授業計画の説明

おおまかに次の三段階で講義を展開する。

第一段階 導入部(1~3回)：主として心の科学や哲学において起こった4E革命(embodied 身体性、embedded 周囲埋め込み、enactive 行為にもとづく意味構成、extended 拡張性)の解説をもとに、それらとの違いによって生態学的アプローチの特徴づけを行う。

第二段階 展開部(4~9回)：生態学的知覚論、運動論、環境論をわかりやすく解説する。この部分が理論的肝となる。

第三段階 応用部(10~15回)：生態学的アプローチがもたらす、認識論、行為論、存在論(形而上学)へのインパクトと諸問題を検討する。

6. 成績評価方法：

レポート70%

平常点(授業への参加度・質疑・リアクションペーパー)30%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

#### 参考書

染谷昌義 (2017) 『知覚経験の生態学』 勁草書房、5,616 円

染谷昌義・野中哲士・細田直哉・佐々木正人 (2018) 『アフォーダンスと身体』 金子書房、2,484 円

J. J. ギブソン (1986) 『生態学的視覚論-ヒトの知覚世界を探る』 古崎敬ほか訳、サイエンス社、4,509 円

J. J. ギブソン (2011) 『生態学的知覚システム-完成をとらえなおす』 佐々木正人ほか訳、東京大学出版会、5,184 円

J. J. ギブソン (2011) 『視覚ワールドの知覚』 東山篤規ほか訳、新曜社、3,780 円

E. S. リード (2000) 『アフォーダンスの心理学』 細田直哉訳、新曜社、5,184 円

佐々木正人 (2015) 『新版 アフォーダンス』 岩波書店、2015 年、1,404 円

三嶋博之 (2000) 『エコロジカル・マインド』 NHK 出版、920 円

河野哲也 (2003) 『エコロジカルな心の哲学』 勁草書房、3,132 円

#### 参考書コメント

まずは佐々木 (2015)、河野 (2003)、三嶋 (2000) の順で読むこと。関心が湧いてきたら、リード (2000)、ギブソン (1986) の順に挑戦する。そのほか、必要に応じて授業内で適宜紹介する。

#### 8. 授業時間外学習:

予習: 前回の授業で配布された資料を読み、それまでなされた講義を想起しておく。

復習: 資料とノートを読み返し、疑問点を出す。授業内で紹介された参考書 (講義内容を補足説明するもの) を読む。

#### 9. その他: なし

質問や相談のある方は、someyate【アットマーク】takachiho.ac.jp まで (アットマークは@に)

予備知識は必要ない。ただし、心の哲学や行為の哲学、現象学、身体論といった分野に関心がある学生には、履修をお勧めしたい。それまでに講義した内容を前提として各回の講義は展開していくため、欠席した場合は資料を入手して読み内容を確認しておく。可能であれば他の受講学生から欠席回の情報を受け取っておく。

リアクションペーパーにより学生の理解度を確認しながら授業を行い、必要に応じて進度を調整する。

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM15306， 科目ナンバリング：LIH-PHI605J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 哲学特論 I 】

**1. 授業題目：**

生命環境倫理の諸問題

**2. Course Title (授業題目)：**

Issues in Bio- and Environmental Ethics

**3. 授業の目的と概要：**

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考える能力を養う。

科学技術の発展に伴って、生命・医療、環境など多様な領域に新たな問題がもたらされている。則ち、人類が大きな可能性を手にすることで、それまで自然に委ねられて問われなくても済んだ事柄に対し、新たに哲学的、倫理的取り組みが求められている。この授業ではこうした問題に取り組むための理論と具体例とを取り扱う。

**4. 学習の到達目標：**

生命倫理学、環境倫理学の基本的な事項を理解し、個別の問題に対して自分なりに考えることができる

**5. 授業の内容・方法と進捗予定：**

今学期は、ドイツ語圏での生命、環境倫理学を参照しつつ、

1) 尊厳概念の諸相（生命、環境、技術など）

2) 科学／技術の現在と人間の尊厳の再検討

について順に論じ、哲学的・倫理学的問題の所在を明らかにする。（講義となっているが、必要に応じて、大学院生による報告も織り交ぜることを予定している）。

1. はじめに：尊厳という概念はいかなる意味か

2. 尊厳という概念は有効か（生命倫理における人間の尊厳）(1)

3. 尊厳という概念は有効か（1人称と2人称）(2)

4. ヒト胚と尊厳

5. ターミナルケアと人間の自律 (1)

6. ターミナルケアと人間の自律 (2)

7. 尊厳死 (1)

8. 尊厳死 (2)

9. 障害と尊厳

10. 自然の価値 (1)

11. 自然の価値 (2)

12. ロボットと人間の尊厳 (1)

13. ロボットと人間の尊厳 (2)

14. まとめ (1)

15. まとめ (2)

【必要に応じて内容を差し替えアップデートを図ることがある】

**6. 成績評価方法：**

レポート 80% 授業への参加 20%

**7. 教科書および参考書：**

教材は必要に応じてコピーを配布します。

参考書：ビルンバッハー『生命倫理学』2018、ダーウォル『二人称的観点の倫理学』、玉井真理子・大谷いずみ編『生命倫理』有斐閣。

**8. 授業時間外学習：**

出席して討議に参加するように努めること。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

**9. その他：なし**

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆、城戸 淳、荻原 理（教授）

講義コード：LM11503， 科目ナンバリング：LIH-PHI606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

**1. 授業題目：**

哲学研究の作法と技法 1

**2. Course Title (授業題目)：**

Philosophy (Advanced Seminar) I

**3. 授業の目的と概要：**

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

**6. 成績評価方法：**

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

**7. 教科書および参考書：**

特に指定しない。

**8. 授業時間外学習：**

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

**9. その他：なし**

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆、城戸 淳、荻原 理（教授）

講義コード：LM21503， 科目ナンバリング：LIH-PHI607J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

**1. 授業題目：**

哲学研究の作法と技法 2

**2. Course Title (授業題目)：**

Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

**3. 授業の目的と概要：**

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果すことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

**4. 学習の到達目標：**

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション
2. 報告と討論（1）
3. 報告と討論（2）
4. 報告と討論（3）
5. 報告と討論（4）
6. 報告と討論（5）
7. 報告と討論（6）
8. 報告と討論（7）
9. 報告と討論（8）
10. 報告と討論（9）
11. 報告と討論（10）
12. 報告と討論（11）
13. 報告と討論（12）
14. 報告と討論（13）
15. 報告と討論（14）

**6. 成績評価方法：**

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

**7. 教科書および参考書：**

特に指定しない。

**8. 授業時間外学習：**

報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

**9. その他：なし**

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：森 一郎（兼務教員）

講義コード：LM12407， 科目ナンバリング：LIH-PHI608J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

アーレント『革命について』第 6 章を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Hannah Arendt's On Revolution, Chapter 6

3. 授業の目的と概要：

ハンナ・アーレントの『革命について』は、『人間の条件』(『活動的生』)に次ぐ第二の哲学的名著であり、21 世紀の今日、まさに読まれるべき根本書である。この授業では、英語版(1963 年)とドイツ語版(1965 年)との違いに留意し、とりわけドイツ語版の精読に努める(ドイツ語版からの日本語訳を配布予定)。今学期は、第 6 章「革命の伝統と革命精神」の後半を読んでゆく。

4. 学習の到達目標：

- ・ 20 世紀の古典的テキストを読み味わい、哲学的思考を鍛える。
- ・ 哲学書の原典読解に堪える語学力を身につける。
- ・ テキストの内容や疑問点を整理して発表し、質疑応答を交わす力を養う。
- ・ 哲学の根本問題と現代日本の問題状況が直結していることを学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ語版の Hannah Arendt, Über die Revolution の日本語訳を配布し、主にそれに拠って議論する予定。英語版 On Revolution とその邦訳『革命について』も参照する。

毎回の担当者は、段落ごとにまとめたレジュメを作成、配布し、それに基づいて報告し、議論をリードする。ドイツ語原文に照らしての訳文の検討も歓迎する。

授業の進行スケジュールは、おおむね以下を予定している。

第 1 回 ガイダンスとイントロダクション——『革命について』を今日読むということ

第 2 回 第 6 章第 3 節(その 1)——ジェファソンの思い入れ

第 3 回 第 6 章第 3 節(その 2)——革命精神を救うもの

第 4 回 第 6 章第 3 節(その 3)と第 4 節(その 1)——新しい政治形態

第 5 回 第 6 章第 4 節(その 2)——マルクスとレーニン

第 6 回 第 6 章第 4 節(その 3)——職業的革命家

第 7 回 第 6 章第 4 節(その 4)——評議会の自発的生起

第 8 回 第 6 章第 4 節(その 5)——政党制の問題

第 9 回 第 6 章第 5 節(その 1)——民主主義、福祉国家

第 10 回 第 6 章第 5 節(その 2)——政治と管理の区別

第 11 回 第 6 章第 5 節(その 3)——政治的エリート

第 12 回 第 6 章第 5 節(その 4)——貴族主義的共和制

第 13 回 第 6 章第 5 節(その 5)——ルネ・シャールとソポクレス

第 14 回 革命精神のゆくえ——アーレントのペシミズム?

第 15 回 まとめ——『革命について』と『革命論』

6. 成績評価方法：

平常点(出席は当然とし、発表担当、議論への参加など)を 60%、学期末レポートを 40%として総合評価する。

7. 教科書および参考書：

・ ドイツ語版テキストの日本語訳をコピーして配布し、これを授業の主要テキストとする。

・ 原書は購入を勧めるが、希望者には該当箇所をコピーして配布する予定。

Hannah Arendt, Über die Revolution, Piper, 1965/ Hannah Arendt, On Revolution, Faber, 1963

・ 英語版からの日本語訳は、参考書として各自購入を勧める。

ハンナ・アレント『革命について』志水速雄訳、ちくま学芸文庫、1995

8. 授業時間外学習：

毎回の講読範囲をあらかじめ熟読し、疑問点などはメモして、授業に臨むこと。また、授業後には何度も読み直して、理解を深めること。

各回の担当者には担当箇所のテキスト精読と入念なレジュメ作成が求められること、言うまでもない。

9. その他：なし

科目名：哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM24211， 科目ナンバリング：LIH-PHI609J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 哲学研究演習Ⅱ】

**1. 授業題目：**

自由と行為の諸問題

**2. Course Title (授業題目)：**

Philosophical Problems of Free Will and Action

**3. 授業の目的と概要：**

人間の自由意志と行為をめぐる哲学的な諸問題について共同で探求する。

演習では、各回の担当者が各自の問題関心に応じて課題を設定し、文献を読み、報告し、討議する。課題は、現代哲学を含めた哲学史上の論点から選ぶ。

受講生の人数や準備状況に応じて、はじめの数回は共通のテキストの読解に当てる場合もある（初回到課題やスケジュール等を決める）。

**4. 学習の到達目標：**

人間の自由意志と行為をめぐる哲学的な諸問題について読み、考え、発表し、討議する。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. プラトンにおけるアイデアと行為
2. アリストテレスにおけるアクラシアの問題
3. アウグスティヌスにおける自由と摂理
4. トマス・アキナスにおける知性と意志
5. ルターの奴隷意志論
6. デカルトにおける自発性と無差別
7. ホッブズにおける自由と法
8. ライプニッツの可能世界論
9. ロックとヒュームの両立論
10. カントにおける自由と自律
11. ヘーゲルの行為論
12. ヴェーバーの社会的行為論
13. ウィトゲンシュタインとアンスコム の行為論
14. デイヴィッドソンの行為の因果説
15. フランクファートの事例

(以上の授業内容と進度はありうるテーマの例を列挙したものであって、実際の計画ではない。)

**6. 成績評価方法：**

発表、討議、期末レポートによる。

**7. 教科書および参考書：**

授業中に紹介します。

**8. 授業時間外学習：**

自分の発表の準備はもちろん必須ですが、その他の回にも予習と復習を繰り返すことで理解が深まることでしょう。

**9. その他：**なし

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LM11305， 科目ナンバリング：LIH-PHI610J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 古代中世哲学研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

アリストテレス『自然学』を読む

**2. Course Title (授業題目)：**

Seminar on Aristotle's PHYSICS

**3. 授業の目的と概要：**

古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。

**4. 学習の到達目標：**

アリストテレス『自然学』第 1 巻の主要論点を正確に説明できるようになる。同巻のテキストの解釈上の問題を正確に説明できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

アリストテレス『自然学』第 1 巻を原語、古代ギリシアで丹念に読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。

**6. 成績評価方法：**

授業時のパフォーマンス

**7. 教科書および参考書：**

授業初回に指示する

**8. 授業時間外学習：**

次回分の箇所を読んでおく

**9. その他：なし**

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LM21307， 科目ナンバリング：LIH-PHI611J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 古代中世哲学研究演習Ⅱ】

**1. 授業題目：**

アリストテレス『自然学』を読む

**2. Course Title (授業題目)：**

Seminar on Aristotle's PHYSICS

**3. 授業の目的と概要：**

古代中世のテキストを語学的・内容的に正確に読解し、これをもとに哲学的な考察・議論ができるようになる。

**4. 学習の到達目標：**

アリストテレス『自然学』第2巻の主要論点を正確に説明できるようになる。同巻のテキストの解釈上の問題を正確に説明できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

アリストテレス『自然学』第2巻を原語、古代ギリシアで丹念に読み、これについて哲学的考察を加える。毎回、事前に担当者を決めておく。担当者はまず自分の担当箇所を音読し、訳す。他の参加者や教員が訳に関しコメントをする。次に、皆でこの箇所の内容について議論を展開する。適宜、翻訳や注釈を参照する。場合により、関連論文も取り上げる。

**6. 成績評価方法：**

授業時のパフォーマンス

**7. 教科書および参考書：**

授業初回に指示する

**8. 授業時間外学習：**

次回分の箇所を読んでおく

**9. その他：なし**

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳 (准教授)

講義コード：LM13507， 科目ナンバリング：LIH-PHI612J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 近現代哲学研究演習 I 】

1. 授業題目：

カント『純粹理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粹理性批判』(1781/87 年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示する超越論的演繹論、カテゴリーを時間化する図式論を承けて、アプリアリな総合判断(原則)を体系的に定式化するところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は「経験の類推」を、後期は引き続き「経験の類推」から、さらに「経験的思考一般の要請」へと進む予定である(範囲は進捗状況に応じて変わる)。また、進行に応じて、関連する各種コメントリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 (承前) 知覚の予料
- 3 3 経験の類推 (1)
- 4 3 経験の類推 (2)
- 5 3 経験の類推 (3)
- 6 A 第一類推 (1)
- 7 A 第一類推 (2)
- 8 A 第一類推 (3)
- 9 B 第二類推 (1)
- 10 B 第二類推 (2)
- 11 B 第二類推 (3)
- 12 B 第二類推 (4)
- 13 B 第二類推 (5)
- 14 C 第三類推 (1)
- 15 C 第三類推 (2)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なし

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：城戸 淳（准教授）

講義コード：LM23508， 科目ナンバリング：LIH-PHI613J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 近現代哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

カント『純粹理性批判』研究

2. Course Title (授業題目)：

Kant's Critique of Pure Reason

3. 授業の目的と概要：

カント『純粹理性批判』(1781/87年)の「原則の分析論」を読む。原則の分析論は、カテゴリーの客観的妥当性を証示する超越論的演繹論、カテゴリーを時間化する図式論を承けて、アプリアリな総合判断(原則)を体系的に定式化するところであり、批判哲学の認識論の諸相がもっとも豊かに語られている。

前期は「経験の類推」を、後期は引き続き「経験の類推」から、さらに「経験的思考一般の要請」へと進む予定である(範囲は進捗状況に応じて変わる)。また、進行に応じて、関連する各種コメントリーや研究書・論文などを報告してもらう。

4. 学習の到達目標：

哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 (承前) C 第三類推(3)
- 3 4 経験的思考一般の要請
- 4 4 経験的思考一般の要請(可能性 1)
- 5 4 経験的思考一般の要請(可能性 2)
- 6 4 経験的思考一般の要請(現実性)
- 7 観念論論駁(1)
- 8 観念論論駁(2)
- 9 観念論論駁(3)
- 10 4 経験的思考一般の要請(必然性 1)
- 11 4 経験的思考一般の要請(必然性 2)
- 12 4 経験的思考一般の要請(必然性 3)
- 13 原則の体系への一般的註解(1)
- 14 原則の体系への一般的註解(2)
- 15 原則の体系への一般的註解(3)

6. 成績評価方法：

訳読、討議、報告による。

7. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)

8. 授業時間外学習：

予習を欠かさずに演習に臨むこと。

9. その他：なし

ドイツ語の初等文法を習得済みであることが必須だが、未履修者は1ヶ月の自習で詰め込んで臨んでよい。

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM15503， 科目ナンバリング：LIH-PHI614J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 近現代哲学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

フッサール「改造論文」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl' s Text

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、現象学の基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・現象学のテキストで読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

フッサールの『改造』論文(1922-24)は、田辺元の求めに応じて日本の雑誌『改造』に寄せられたものです。フッサールの後期の哲学、文化論に親しむ格好の材料であるとともに、日本哲学の生成に対する現象学の影響や間文化的な観点からしてみても貴重な文献です。全5回のうち、3回分だけが日本語に翻訳されて雑誌に掲載され、残り2回分は遺稿として残されています。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この論文をドイツ語の原文で読むことにします。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照しても大丈夫です。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進めます。

必要に応じて、『間主観性の現象学 2』、「アムステルダム講演」など周辺の文献を参照したり、大学院生に紹介してもらったりすることもあります。

- 1, イントロダクション 現象学とは
- 2, 『改造』と日本哲学の紹介
- 3, 「改造論文」読解 (1)
- 4, 「改造論文」読解 (2)
- 5, 「改造論文」読解 (3)
- 6, 「改造論文」読解 (4)
- 7, 「改造論文」読解 (5)
- 8, 「改造論文」読解 (6)
- 9, 「改造論文」読解 (7)
- 10, 「改造論文」読解 (8)
- 11, 「改造論文」読解 (9)
- 12, 「改造論文」読解 (10)
- 13, 「改造論文」読解 (11)
- 14, 「改造論文」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Aufsätze und Vorträge, (Husserliana XXVII), 1989,  
テキストおよび邦訳などは、授業時に紹介、配布する。

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：なし

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM25503， 科目ナンバリング：LIH-PHI615J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 近現代哲学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

フッサール「改造論文」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Husserl's Text

3. 授業の目的と概要：

現象学の原典を読み、その基本問題を理解し、自分なりに議論する力を身につける。

4. 学習の到達目標：

- ・フッサールの現象学について自分なりのしかたで簡単な説明をすることができる。
- ・現象学のテキストを読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、フッサールの『改造』論文(1922-24)を読みます。

フッサールの『改造』論文(1922-24)は、田辺元の求めに応じて日本の雑誌『改造』に寄せられたものです。フッサールの後期の哲学、文化論に親しむ格好の材料であるとともに、日本哲学の生成に対する現象学の影響や間文化的な観点からしてみても貴重な文献です。全5回のうち、3回分だけが日本語に翻訳されて雑誌に掲載され、残り2回分は遺稿として残されています。

この授業では現象学について最低限の紹介をしたのち、この論文をドイツ語の原文で読むことにします。ドイツ語に慣れない学生は邦訳を参照しても大丈夫です。適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読するかたちで進めます。

必要に応じて、『間主観性の現象学 2』、「アムステルダム講演」など周辺の文献を参照したり、大学院生に紹介してもらったりすることもあります。

- 1, 前期の復習
- 2, 『改造』フッサール中期・後期の哲学
- 3, 「改造論文」読解 (1)
- 4, 「改造論文」読解 (2)
- 5, 「改造論文」読解 (3)
- 6, 「改造論文」読解 (4)
- 7, 「改造論文」読解 (5)
- 8, 「改造論文」読解 (6)
- 9, 「改造論文」読解 (7)
- 10, 「改造論文」読解 (8)
- 11, 「改造論文」読解 (9)
- 12, 「改造論文」読解 (10)
- 13, 「改造論文」読解 (11)
- 14, 「改造論文」読解 (12)
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

7. 教科書および参考書：

E. Husserl. Aufsätze und Vorträge, (Husserliana XXVII), 1989,

テキストおよび邦訳などは、授業時に紹介、配布する。

参考書は多数あるので開講時に提示する。

8. 授業時間外学習：

担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

9. その他：なし

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：荻原 理（准教授）

講義コード：LM11405， 科目ナンバリング：LIH-PHI616J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 科学哲学研究演習 I 】

**1. 授業題目：**

クワイン「二つのドグマ」とその周辺

**2. Course Title (授業題目)：**

Quine's 'Two Dogmas' etc.

**3. 授業の目的と概要：**

分析哲学・科学哲学の古典的論文である、W. v. O. クワインの「経験論の二つのドグマ」、およびこれに対する古典的応答である、P. グライスと P. F. ストローソンの「一つのドグマを擁護して」を原語（英語）で精読し、分析哲学・科学哲学の基礎概念や主要論点のいくつかを学び、議論の方法に慣れる。

**4. 学習の到達目標：**

クワインの「経験論の二つのドグマ」、およびグライス&ストローソンの「一つのドグマを擁護して」の議論を、全体としても、細部についても正確に説明できるようになる。そこに登場する重要な用語を正確に使用できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

まず「経験論の二つのドグマ」を、次に「一つのドグマを擁護して」を、原語（英語）で丹念に読んでいく。あらかじめ担当者を決め、担当箇所を割り当てる。担当者は担当箇所の邦訳と内容要約とを準備しコピーをとり、授業中に配布する。授業中、まず担当者が邦訳と内容要約を読み上げ、皆で、訳と要約について議論する。次に、内容についての立ち入った議論に移る。

第1回： イントロ

第2回：「経験論の二つのドグマ」第1節前半

第3回： 同 第1節後半

第4回： 同 第2節

第5回： 同 第3節

第6回： 同 第4節

第7回： 同 第5節

第8回： 同 第6節

第9回：「一つのドグマを擁護して」 (1)

第10回： 同 (2)

第11回： 同 (3)

第12回： 同 (4)

第13回： 同 (5)

第14回： 同 (6)

第15回： 全体討論

**6. 成績評価方法：**

授業中のパフォーマンス

**7. 教科書および参考書：**

授業初回に指定

**8. 授業時間外学習：**

担当者でなくても次回に扱う箇所を読み、議論の準備をする

**9. その他：なし**

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM22211， 科目ナンバリング：LIH-PHI617J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 科学哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

因果性の哲学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the philosophical considerations on causality

3. 授業の目的と概要：

因果性はヒューム以来の哲学的問題である。この問題は、狭義の哲学的問題であるだけでなく、数物科学、生命科学、社会科学などにおいて重要な位置を占めている。この演習では、現在の科学哲学における因果性の問題についての議論を取りあげ、検討する。

4. 学習の到達目標：

- ・因果性がどのようなものであるかについて、哲学的問題の所在を理解し、自分なりの考えをもてるようになる。
- ・因果性についての日本語、英語の論文を理解できる力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

マンフォード、アンユム『因果性』を手がかりに、関連する論文を取りあげ、議論する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 科学における説明
- 3, 因果性という問題
- 4, 因果性と規則性
- 5, 原因は結果に先行するか
- 6, 原因と結果の必然性
- 7, 反事実的条件における依存性
- 8, 物理主義
- 9, 因果性に関する多元主義はあるか
- 10, 因果性のもっとも基礎的か
- 11, 因果性と傾向性(disposition)
- 12, 因果的説明と解釈的理解
- 13, 因果性と統計
- 14, シミュレーションという問題
- 15, まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（報告を含む） 80% 授業への参加（討論） 20%

7. 教科書および参考書：

マンフォード、アンユム『因果性』岩波書店。授業の初めに取りあげる論文の一覧を提示する。

参考書 オカーシャ『科学哲学』岩波書店、ローゼンバーグ『科学哲学』春秋社、須藤靖・伊勢田哲治『科学を語るとはどういうことか』河出ブックスほか。

8. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

9. その他：なし

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：直江 清隆（教授）

講義コード：LM25303， 科目ナンバリング：LIH-PHI618J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 生命環境倫理学研究演習 I】

**1. 授業題目：**

エイジングの時代の医療・技術

**2. Course Title (授業題目)：**

Medicine and technology in the era of aging

**3. 授業の目的と概要：**

高齢化の進む先進校社会において、医療や技術には新たな対応が求められている。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、苦痛、エンハンスメントなどについて考えていくことにする。

**4. 学習の到達目標：**

生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。

**5. 授業の内容・方法と進度予定：**

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとする。論文は、John K. Davis New Methuselahs, 2018, P. Lin et al. (ed.) Robot ethics 2.9, 2018, A. Feenberg, Technology, modernity, and democracy, 2018 などから適宜選択するが、日本語の論文も取り上げる。じっくり討論することに力点を置く。

1. ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)

2. 担当者による報告と内容についての議論 ((2)、(4)、(5)、(8)は各2回を予定)

(1) 長寿化の倫理とは

(2) 長寿化と平等、正義

(3) 長寿化と権利をめぐる葛藤

(4) 長寿化と豊かさ

(5) エンハンスメントへに対する恐れ

(6) 高齢化社会と世代間倫理

(7) ロボットはケアすることはできるか

(8) ロボットに対する信頼

(9) 技術のパラドクス

3. まとめ

(参加者の関心に応じて扱うトピックスを若干変更することがある)

**6. 成績評価方法：**

レポート(訳読の担当などを含む)60% 授業全体への貢献度 40%

**7. 教科書および参考書：**

開講時に論文一覧を配布し、プリントはそのつど配布する。

そのほかの参考文献については適宜授業内に指示する。

**8. 授業時間外学習：**

担当の回でなくとも予習すること、討議をもとに再度自分で考え直すこと。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、基本書にも進んで取り組んで欲しい。

**9. その他：なし**